

# 第49期 報告書

自：令和 2 年 4 月 1 日

至：令和 3 年 3 月 31 日

釧路空港ビル株式会社

目 次	(ページ)
事 業 報 告	
1, 株式会社の現況に関する事項	2-4
2, 株式に関する事項	5
3, 会社役員に関する事項	5
貸 借 対 照 表	6
損 益 計 算 書	7
株 主 資 本 等 変 動 計 算 書	8
個 別 注 記 表	9-10
監 査 役 監 査 報 告	11
設 備 の 状 況	12

## 事業報告（令和2年4月1日から令和3年3月31日まで）

### 1, 株式会社の現況に関する事項

#### (1)事業の経過及びその成果

当期における日本経済は、新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響を受け経済活動が停滞し、個人消費やインバウンド需要の低迷が続くなど、非常に厳しい状況で推移しました。今後の景気の先行きは、各種政策効果や海外経済の回復により、緩やかに持ち直して行くことが期待されるものの、感染再拡大によるリスクがあり不透明な状況が続いております。

また世界経済も、感染拡大とそれに伴う行動制限や外出自粛により急速に悪化し、歴史的な低迷に陥っております。今後はワクチンの普及とともに緩やかな経済の回復が見込まれておりますが、新たな感染の波やウイルスの変異種の発生による経済活動の停滞も懸念されております。

さて、こうした状況のもと第49期の釧路空港における利用実績は、新型コロナウイルス感染症の影響による航空需要の落ち込みにより、全ての路線で前期実績を大幅に下回り、合計では前期末比約48万人減（約41%減）となる33万9千人となりました。

期中においては、ピーチアビエーションによる成田線の新規就航や「Go To キャンペーン」実施時の需要回復など明るい兆しも見られましたが、その後の感染再拡大により前例のない厳しい結果となりました。

こうした状況の下、当社の第49期の営業収入は前期比4,505万円減収（8.5%減）の4億8,435万円を計上しております。営業収入の内訳では、貸室収入は1億4,131万円、管理収入は7,034万円で、ともに前期に比べ減少となりました。共用施設収入は、前期比13万円減収（0.1%減）の2億577万円を計上しております。次に附帯収入についてはチャーター便の就航が無かったことが大きな減収要因となり、前期比で272万円減収の1,521万円、営業雑収入は空港利用客の減少に伴うテナントの営業時間短縮により光熱費などが減収となったため、前期比で843万円減収（17.4%減）の4,011万円を計上しております。

一般管理費では、前期比1,439万円減（3.7%減）となる3億7,277万円を計上しております。

結果、当期の経常利益額は前期比で1,895万円減益（14.2%減）の1億1,411万円となり、当期純利益額は前期比で1,383万円の減益（14.5%減）となる、8,180万円を計上しております。

令和2年度 釧路空港 国内定期便利用実績（直近2カ年との年度実績の比較）

路線	航空会社	乗降客数（人）				
		R02（A）	R01（B）	H30（C）	（A/B）%	（A/C）%
羽田	JAL	93,837	287,253	294,032	32.7	31.9
	ANA	7,820	91,367	94,255	8.6	8.3
	ADO	75,552	155,189	164,395	48.7	46.0
	小計	177,209	533,809	552,682	33.2	32.1
新千歳	ANA	40,520	100,463	102,146	40.3	39.7
丘珠	JAL	50,307	71,270	75,188	70.6	66.9
伊丹	ANA	1,203	4,810	7,876	25.0	15.3
中部	JAL	1,361	3,706	3,536	36.7	38.5
関空	APJ	68,964	105,094	69,452	65.6	99.3
成田			—	—	—	—
合計		339,564	819,152	810,880	41.5	41.9

注）APJ（ピーチ）関西便・成田便の乗降客数は、釧路空港事務所からの提示値を元にして算出しました。対前年及び前々年との比較は便宜上記載していますが、関空便（H30年8月）成田便（R01年8月）就航開始のため参考値として表示しました。

令和2年度 釧路空港 国際便利用実績（直近2カ年との年度実績の比較）

路線	航空会社	乗降客数（人）		
		R02	R01	H30
仁川	大韓航空	0	771	1,058

注）プライベートチャーター・米軍チャーターは、含んでおりません。

(2)直前三事業年度の財産及び損益の状況

区分	令和2年度 （当事業年度）	令和1年度	平成30年度	平成29年度
営業収入	484,355千円	529,400千円	520,620千円	525,530千円
当期純利益	81,799千円	95,627千円	82,279千円	90,959千円
一株当り当期純利益	204円50銭	239円06銭	205円70銭	227円40銭
総資産	2,076,112千円	1,981,346千円	2,040,895千円	2,141,442千円
純資産	1,287,853千円	1,206,053千円	1,115,426千円	1,038,147千円

(3)対処すべき課題

次の項目が、当社における当面の課題であると認識し、この解決に取り組むと共に、空港ターミナルビルの安全・安心の確立とお客様満足の向上に努めて参ります。

- ・北海道エアポートとの円滑な統合、一体的な事業計画の推進
- ・機能維持投資計画の実行による空港施設の安全確保
- ・営業利益率の改善、キャッシュフローの最大化
- ・地域観光推進活動への参画
- ・施設利用におけるお客様満足度の更なる向上
- ・業務改善の推進と人材育成

(4)当該事業年度の末日における主要な事業内容

- ・空港ビルの管理、経営に関する事業
- ・貸室並びに施設の貸与業
- ・航空事業の普及に関する事業
- ・前各号に附帯関連する一切の事業

(5)当該事業年度の末日における事業所及び使用人の状況

①事業所

北海道釧路市鶴丘2番地（本社所在地）

②使用人の状況

使用人数	8名
平均年齢	37.63歳
平均勤続年数	9年0ヶ月

(6)重要な親会社の状況

当社の親会社は、北海道エアポート株式会社であり、同社は当社の株式を400,000株（議決権比率100%）保有しております。

(7)主要な借入先及び借入額

借入先	当事業年度末借入残高
北海道エアポート株式会社	650,000,000円

## 2, 株式に関する事項

- ①発行可能株式総数 普通株式1,000,000株
- ②発行済株式の総数 普通株式400,000株
- ③当事業年度末の株主数 1名

株 主 名	持株数	持株比率
北海道エアポート株式会社	400,000株	100.00%

## 3, 会社役員に関する事項

### (1)取締役及び監査役

氏 名	地位及び担当	
小 林 強	代表取締役社長	
袴 田 慶 一	専務取締役	
立 石 浩 二	常務取締役	
望 月 吉 雄	取締役	
川 村 修 一	取締役	釧路商工会議所 専務理事
山 口 康 尚	取締役総務部長	
香 川 眞 廣	監査役	阿寒バス株式会社 代表取締役社長

注1, 取締役 川村修一氏は会社法第2条第15号に定める社外取締役です。

注2, 監査役 香川眞廣氏は会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

### (2)取締役に支払った報酬等の総額

区 分	人 数	報 酬 の 額
取締役	5人	22,476,000円

注1, 取締役に対する報酬限度額(年額)は、2020年4月2日の臨時株主総会において  
25百万円と決議されております。

注2, 社外取締役及び社外監査役に対する報酬等の支払はありません。

# 貸借対照表

令和3年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>1, 流動資産</b>	<b>453,599,277</b>	<b>1, 流動負債</b>	<b>93,927,915</b>
現金・預金	9,254,802	買掛金	4,858,416
未収入金	800,700	未払金	53,540,498
売掛金	13,999,818	前受金	14,997,526
前払費用	1,660,236	預り金	800
仮払金	135,998	未払消費税	5,544,400
預け金	426,377,565	未払法人税等	12,415,700
貯蔵品	1,370,158	賞与引当金	2,570,575
<b>2, 固定資産</b>	<b>1,622,512,325</b>	<b>2, 固定負債</b>	<b>694,330,617</b>
(1)有形固定資産	<b>1,579,601,437</b>	長期借入金	650,000,000
建物	1,404,212,139	敷金	23,282,097
建物附属設備	77,560,458	役員退職引当金	3,700,000
構築物	91,539,754	退職給付引当金	17,348,520
什器備品	6,289,086		
(2)無形固定資産	<b>745,884</b>		
電話加入権	403,300	負債の部合計	<b>788,258,532</b>
ソフトウェア	342,584	<b>(純資産の部)</b>	
(3)投資その他の資産	<b>42,165,004</b>	<b>1, 株主資本</b>	
出資金	1,045,000	(1)資本金	<b>200,000,000</b>
投資有価証券	24,000,000	(2)利益剰余金	<b>1,087,853,070</b>
保険積立金	4,583,884	①利益準備金	30,700,000
繰延税金資産	12,536,120	②その他利益剰余金	<b>1,057,153,070</b>
		別途積立金	177,987,099
		繰越利益剰余金	879,165,971
		純資産の部合計	<b>1,287,853,070</b>
資産合計	<b>2,076,111,602</b>	負債・純資産合計	<b>2,076,111,602</b>

# 損益計算書

自：令和2年4月1日      至：令和3年3月31日

(単位：円)

科 目	金 額	
<b>営業収入</b>		<b>484,354,555</b>
貸 室 収 入	141,309,228	
管 理 収 入	70,335,154	
共 用 施 設 収 入	205,765,553	
附 帯 収 入	15,211,366	
営 業 雑 収 入	40,107,930	
保 安 施 設 使 用 収 入	11,625,324	
<b>一般管理費</b>		<b>372,771,640</b>
<b>営業利益</b>		<b>111,582,915</b>
<b>営業外収益</b>		<b>3,846,390</b>
受 取 利 息	3,353	
受 取 配 当 金	811,500	
雑 収 入	3,031,537	
<b>営業外費用</b>		<b>1,316,971</b>
支 払 利 息	0	
社 債 利 息	0	
雑 損 失	1,316,971	
<b>経常利益</b>		<b>114,112,334</b>
<b>特別損失</b>		<b>1</b>
<b>税引前当期純利益</b>		<b>114,112,333</b>
<b>法人税、住民税及び事業税</b>		<b>32,377,800</b>
<b>法人税等調整額</b>		<b>▲ 65,213</b>
<b>当期純利益</b>		<b>81,799,746</b>



# 株主資本等変動計算書

自：令和2年4月1日 至：令和3年3月31日

(単位：円)

科 目	株 主 資 本						純資産合計
	資本金	利 益 剰 余 金				株主資本 合 計	
		利 益 準 備 金	そ の 他 利 益 剰 余 金		利 益 剰 余 金 合 計		
			別 途 積 立 金	繰 越 利 益 剰 余 金			
当期首残高	200,000,000	30,700,000	177,987,099	797,366,225	1,006,053,324	1,206,053,324	
当期変動額							
当期純利益				81,799,746	81,799,746	81,799,746	
計	0	0	0	81,799,746	81,799,746	81,799,746	
当期末残高	200,000,000	30,700,000	177,987,099	879,165,971	1,087,853,070	1,287,853,070	

## 1, 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### (1)棚卸資産の評価基準及び評価方法

貯蔵品 最終仕入による原価法

### (2)有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券（市場価格のないもの）…取得原価によっております。

### (3)固定資産の減価償却の方法

- ・有形固定資産…定額法
- ・無形固定資産…定額法

### (4)引当金の計上基準

賞与引当金

従業員の賞与支給に備えるため、支給見込額の当期負担分を計上しております。

役員退職引当金

役員の退職慰労金の支給に備えるため内規に基づく期末要支給額を計上しております。

退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、期末自己都合要支給額を計上しております。

### (5)リース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

### (6)消費税等（地方消費税を含む）の会計処理は、税抜方式によっております。

## 2, 株主資本等変動計算書に関する注記

無配のため、該当事項はありません。

## 3, その他の注記

(1)担保に供している資産…1,404,212千円（建物）、3,628千円（建物附属設備）、14,000千円（売掛金）

(2)有形固定資産の減価償却累計額…4,310,405千円

(3)一株当たり純資産額…3,219円63銭

(4)一株当たり当期純利益金額…204円50銭

(5)資産除去債務に関する注記…当社は、国有財産使用許可に基づき使用する土地等について、

返還時における原状回復に係る債務を有しておりますが、当該債務に関連する土地等の使用期間が明確でなく、当該債務を合理的に見積ることができません。また当社は、過去に使用していた土地における残置物について、撤去義務が生じる可能性を有しておりますが、当該土地の今後の利用計画が未定であり、当該債務を合理的に見積ることができません。よって当該債務に見合う資産除去債務を計上しておりません。

#### 4, 税効果会計に関する注記

繰延税金資産の主な項目は、次のとおりです。

賞与引当金	783 千円
未払事業税	955 千円
一括償却資産損金算入限度超過額	401 千円
退職給付引当金	5,284 千円
役員退職引当金	1,127 千円
その他	3,986 千円
<hr/>	
小計	12,536 千円
評価性引当金	0 千円
<hr/>	
繰延税金資産合計	12,536 千円

令和3年5月13日

## 監査役監査報告

釧路空港ビル株式会社

監査役 香川 眞廣 ⑨

第49期事業年度の事業報告、計算書類、これらの附属明細書その他取締役の職務執行の監査について、次のとおり報告します。

### 1. 監査の方法及びその内容

監査方針、監査計画を定めた上で調査を行い、監査にあたっては、総務部の職員を補助として使用して調査等を行いました。

具体的には、取締役会その他の重要な会議に出席し、会計帳簿、会計書類、重要な決裁文書及び報告書を閲覧し、当社の取締役等から、職務の執行状況等について定期的に報告を受け、また、随時説明を求め調査を行いました。

### 2. 監査の結果

- (1)事業報告及びその附属明細書は法令及び定款に従い当社の状況を正しく表示しています。
- (2)取締役の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
- (3)当社の業務の適正を確保するために必要な体制の整備等についての取締役会の決議の内容は相当であり、当該体制の運用状況につき指摘すべき事項はありません。
- (4)当社の財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針の内容等については、指摘すべき事項はありません。
- (5)計算書類とその附属明細書は当社の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しています。

### 3. 追記情報

ありません。

以 上